

序論

日本社会は色々な性質があります。それは働く、忠義、モラル、頑張る、名誉などです。その性質は武士に描かれた。武士の中で武士の教義があつて、それは武士道ということであります。武士道の中に、一番大切な主義は名誉であります。名誉の主義は武士の一分の映画に文せきするつもりであります。研究の接近はモラルの接近に用います。

武士道の日本封建主義の道德の日本民族になります。武士道は仏教、禅、神道、と孔子のコンビネーションからであります。名誉はあるひとつ武士度の原則の意味は尊厳の生活意識と自分の価値に表せます。名誉は愛と守りしなければならないように、恥と恥ずかしいのことはおこしません。

刀は彼らにとって一番大切なものであります、特に生活の中です。もし刀は無くなると、自分も無くなると考えられています。もし刀が違反に使われると、ほかの人に批判されることになります。それは武士にとって、恥になると思います。

切腹は一つの名誉の例であります。名誉を守るため武士ならば恥をするのは一番大切であります。

武士婦人^{ふじん}は特に武士の妻は主人の名誉を守らなければなりません。婦人は武士の家族を生まれましたからであります。自動的に武士の一分になるから名誉を守らなければなりません。

本論

三村新之丞

新之丞は毒に入っている貝を食べた後、目が見えなくなっていました。その後、新之丞は何回も自殺するつもりであります。なぜなら武士は盲目になると、ほかの人に面倒になるからであります。それは武士にとって恥であります。新之丞は自殺するかのせいがまだあるから、加世は刀を隠します。でも武士は刀からはなられませんから、新之丞は加世に刀をもとの所に戻して頼みます。刀は武士にとって自分のたましいであります。

もう一度、新之丞の名誉はすじになります。新之丞は加世が島田籐弥という役人と茶屋へ行ったのがききます。島田は本当に助けてと思います。でも実は島田は新之丞の生活を助けるのを何もしませんでした。島田は加世は手に入れるので新之丞の様子を利用します。彼は島田の取り扱いに名誉をすじしてと思います。そして新之丞は島田に決闘^{けつとう}を挑戦^{ちょうせん}します。彼の目的

は、名誉を戻すすることであります。やっと、新之丞は島田に負けさせます。

樋口作之助

城のお手伝い長は樋口と申します。彼の義務は將軍のため食べ物を準備しています。ある日樋口の準備していた食べ物は毒に入っています。そのことをあつたから、城はさわいでいます。新之丞はその食べ物を食べた後、盲目になります。將軍のための食べ物は毒に入ってしまうのは自分の失敗と思いますが、その事件は自分の責任になるから、恥を無くすため切腹しなければなりませんと樋口が思います。それは名誉だと思いません。

島田藤弥

島田藤弥はずるいな人で、新之丞の様子を知て、加世を自分のものにするつもりであります。島田は加世に会って、悪いことをしました。新之丞は島田のこと聞いて、おこっしまいました。自分の名誉を戻すため新之丞は島田と決闘します。新之丞は島田の右手を切って帰ります。

島田は城へ戻って何がおこったのは誰にも言いません。それは恥になるからであります。武士にとって恥は一番最悪なことから、切腹したほうが一番よいと思います。

三村加世

いくらくる死んでいるのも加世はいつも新之丞のそばにいます。新之丞の生活のため、加世は島田に頼みます。でも島田はずるいな人ですから、約束を守りません。約束を破って、島田は加世に悪いことをしました。新之丞はそのことを知ってから、加世を家から追いだされました。

結論

武士にとって、名誉がなくすと、恥を負います。ですから恥を負ってよりもっと切腹をしたほうが一番よいことだと思います。名誉と切腹があります。武士の一分の映画の中に、いくつのか人物は名誉のために切腹しています。他のことは名誉と刀は関係があります。もし武士の刀を無くなるとこれは名誉と分の自分を無くなると同じであります。名誉と武士婦人も関係があります。武士婦人特に武士の妻は主人のために主人の名誉と自分の名誉が一生に守らなければなりません。もし妻ので名誉を無くなると、主人がも恥を追います。

DAFTAR ISI

	Halaman
KATA PENGANTAR	i
DAFTAR ISI.....	v
BAB I PENDAHULUAN	
1.1 Latar Belakang Masalah.....	1
1.2 Pembatasan Masalah	5
1.3 Tujuan Penelitian	5
1.4 Pendekatan Penelitian	6
1.5 Organisasi Penulisan	9
BAB II <i>MEIYO</i> (名譽)	
2.1 Pengertian <i>Bushido</i> (武士道)	10
2.2 Kemunculan <i>Bushido</i>	11
2.3 Pengertian <i>Meiyo</i>	14
2.4 <i>Katana</i> (刀) dan <i>Meiyo</i>	16
2.5 <i>Seppuku</i> (切腹) dan <i>Meiyo</i>	18
2.6 Wanita Bushi dan <i>Meiyo</i>	20

BAB III *MEIYO* DITINJAU MELALUI PENOKOHAN

3.1 Mimura Shinnojo (三村新之丞)	23
3.2 Higuchi Sakunosuke (樋口作之助).....	36
3.3 Shimada Toya (島田藤弥).....	37
3.4 Mimura Kayo (三村加世)	41

BAB IV KESIMPULAN..... 51

DAFTAR PUSTAKA	54
LAMPIRAN.....	vii
SINOPSIS	xiii
RIWAYAT HIDUP PENULIS	xviii